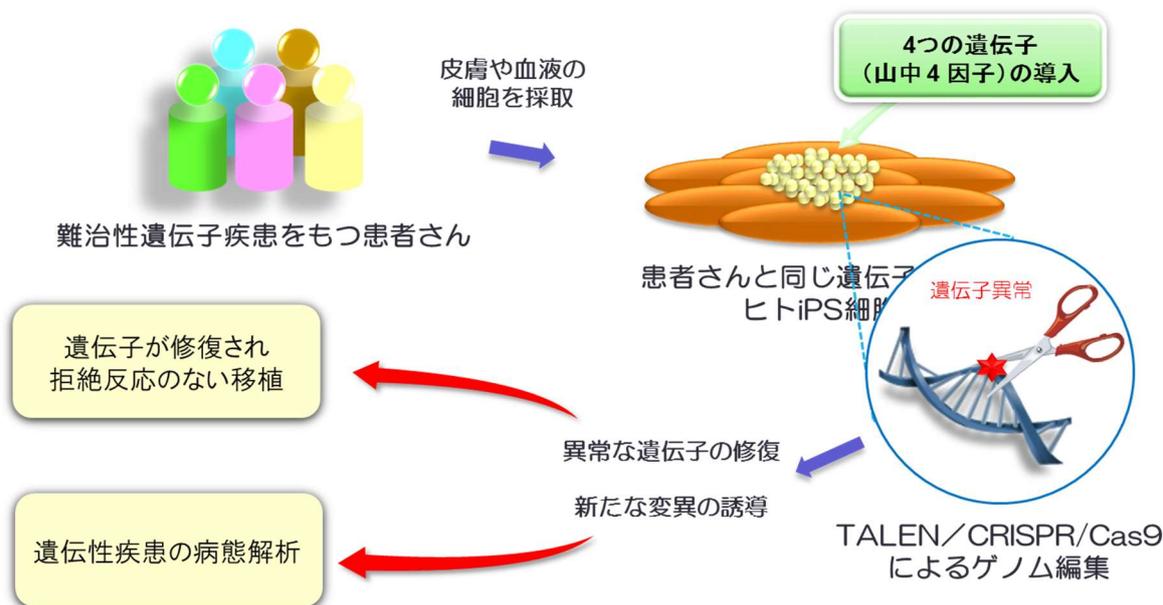


講座名（専門科目名）	小児科学教室	教授氏名	北嶋康司
学生への指導方針	学生の自主性と意欲を尊重し、修士・博士課程を修了できるよう最大限の努力を惜しみません。小児難病の治療法開発を目指した研究を進めていきたいと思ひます。		
学生に対する要望	最も重要なことは周囲と協力し合つて仲良くできることです。また研究における疑問点を積極的に解決しようとする姿勢が持てるなら言うことはありません。		
問合せ先	(Tel) 06-6879-3932 (Email) kawatani@ped.med.osaka-u.ac.jp	担当者	川谷 圭司
その他出願にあつての注意事項等			

「ヒト iPS 細胞/マウスモデルとゲノム編集技術をもちいた ダウン症候群の病態解析と遺伝子治療法の開発」

医学修士課程を目指すみなさんは、多かれ少なかれ‘医学研究’に興味を持たれていることでしょう。私たちの研究室では、臨床の場で得られた患者さん検体とその知見をもとに、ヒト iPS 細胞/マウスモデルとゲノム編集という最先端技術をもちいた基礎医学研究を行っています。私たちと一緒に、実際の病気や患者さんの病態に密着した最先端の研究をしてみませんか？



◆ ダウン症候群

私たちのグループでは、小児でもっとも多い遺伝性疾患であるダウン症候群にフォーカスを当てて研究を進めています。

ダウン症候群はだれもが知っている疾患であるにもかかわらず、精神発達障害や認知症が起こるメカニズムはほとんどまったく分かっていません。そこで私たちはダウン症新生児の臍帯血をもとに iPS 細胞を作成し、ゲノム編集技術によって遺伝子操作を行つて病態解明に取り組んでいます。これは小児期の神経

発達障害だけでなく、成人期に起こる認知障害のメカニズム解明につながると期待されます。
これまでになかった新しい治療法が見つかるのでは、と大きな期待を抱いています。

みなさんの中には、臨床教室に所属して研究を行うことに不安やためらいがあるひともいるでしょう。

私たちの研究グループでは、医学部卒業者ではない大学院生が昨年まで3人、いまも1人在籍しています。卒業した3人のうち、2人は医学修士課程を修了して就職、もう1人は大学院に進学して高いレベルの英語論文を発表し、立派に博士課程を修了しました。そして3人ともに、希望の就職先に旅立っていきました。彼／彼女たちは自分自身の長所を活かしつつ、医学部出身の大学院生たちと交わることでその臨床的経験を取り込み、ときには臨床の場に触れながら、またラボの柱のひとつとして、なくてはならない戦力としてその力を発揮してくれています。

そして昨年度ももうひとり、医学修士課程の学生さんが博士課程に進み、いっしょに研究を進めています。彼女も他の大学院生のみなさんといっしょに張り合いのある研究をしています。

例年たくさんの方が話を聞きに来てくれます。約3分の2の方が私たちの教室への入学を希望され、入試に合格された方はそのまま途中で脱落することなく最後まで続いています。

みなさんもぜひ私たち研究室のひとりとして、小児の難病研究を進める手助けをしてください。

小児科学講座 新生児グループ
川谷 圭司